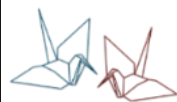




未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 12月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和6年11月29日発行



来年度の運動会は・・・

今、僕は来年度の学校運営について、検討しているところです。その中で、本年度から考えてきた「子ども主体の教育」をもう一步、進めたいという思いをもっています。

子どもたちが生きる社会は、不確実で、今大人が見ている社会とは、大きく変容した社会になることが予想されます。そのどうなるかわからない社会に生きる子どもたちは、どんな力をもっていればよいのでしょうか。

本校のミッションはこの見通しのきかない社会で生きられる「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」を育てることです。そして、今、身に付けたい力として、かしこい子「自分を知り、表現できる力」とやさしい子「多様な考えを受容する力」の育成をビジョンとしています。

ここで求めたい子どもの姿は、主体として生きる子どもです。言われたことをきちんとできる子どもではありません。自分で思考して判断して、決めていける子どもたちです。このビジョン、ひいてはこのミッションを達成するための方法論として、改めて「子ども主体の教育」を位置づけたいと考えているのです。

今年度の運動会では、この「子ども主体」という部分を少しでもよいから意識した企画提案をしてほしいと職員にお願いしていました。その中で、競技を自分たちで考えたり、作戦を考える時間を十分に取ったり、ダンスや表現運動の中に、子どもたちが創る部分を確保したりしてきました。結果は、手前みそながら、子どもたち1人1人が充実した、やりきったと思える運動会になったと考えています。

運動会は、何のためにやるのかを改めて考えると、**子どもたちの成長のために行うものであり、保護者や地域の方々にお見せするためのものではない**と分かります。僕は、この運動会というツールを用いて、「子ども主体」ということをもっと子どもたち自身が自覚できる場として再構成したいと考えています。

本校の運動会は、暑さ対策やめあてを達成できるとの判断から、午前開催としています。その午前開催の中で「子ども主体」の実現のために、徒競走と団体競技を隔年で行うとしま

した。まず、この部分を再度変更して、全学年で団体競技を行うことにしたいと考えています。わが子の走る姿をご覧になりたい方もいらっしゃるだろうと想像します。しかし、自分たちでどのような競技をするか話し合ったり、ルールを工夫したり、作戦を考えたりと、様々な場面で、「子ども主体」を実現できそうなのです。低学年でも、自分は今何を考え、こうしたいのだと語れるきっかけになるはずです。

次に、限られた子どもしか出場できないリレーについて、その存続について子どもたちに考えてもらいたいと思っています。運動の得意な、足の速い子どもたちの活躍の場を奪うことになるかもしれません。しかし、体育の「走の運動」の領域では、そういった子どもたちは光を浴びています。算数の得意な子どもが、理科が得意な子ども等が、授業の中で注目されるのと全く変わりありません。

学校全体での行事の企画立案・運営を担っている児童委員会のひとつ、運営委員会に、運動会の種目についてみんなに任せて決めてもらいたいと伝えました。運営委員の子どもたちは「えっ、そんなことできるの」と言ったそうです。「うれしい、わくわくする」と言った子ども、「ちょっとこわい感じがする」と語った子どもいたと聞いて、うれしくなりました。責任あることだと感覚的に分かっている証拠です。現在リレーを行っている時間枠を子どもたちに任せて、どんな活動をすることが(リレーも含めて)「**運動会のテーマに合うのか**」を検討してもらいます。当然、運営委員会の中だけで決定するのではなく、代表委員会(クラスの考えをもち寄って、学校全体のことを決める児童の会議)という、児童代表が集まる会議の中で決めていきます。つまり、すべての学級で話し合いがなされるわけです。

そのために、特別活動の「学級会」のもち方について研修を行いました。僕ら自身も「子ども主体」にするためのアップデートを始めています。あるべきものがなくなったり、変わったりすることは、痛みを伴うことも十分、分かっています。けれど、教育は今までをなぞらえているだけではダメなのです。未来に生きる子どもたちに応えることができないからです。